

教育学速習講座 教育社会学

【最重要人物】

イリイチ

著作：『脱学校の社会』

○脱学校論

学校を解体すべき

バーンSTEIN

著作：『言語社会化論』『教育伝達の社会学』

○言語コード論

2種類の言語コードによって教育格差が生じるという考え

- ・精密コード：中産階級が使用する抽象的で説明的な話し方
- ・限定コード：労働者階級でのみ使用する話し方（例）スラングなど

同じコードが通じる者同士接するようになり、中産と労働者で格差が生じる

※文化的再生産論に似ている

ブルデュー

著作：『再生産』『遺産相続者たち』

○文化的再生産

文化資本（教育社会学用語を参照）を通じて、親から子へと社会的地位が再生産される現象。

《覚え方》

「ブルデュー」と「文化的」共に「ぶ」から始まる

ベッカー

○ラベリング論

レッテル貼りによる逸脱者の創出

×逸脱→逸脱者と認識される

◎逸脱者のレッテル貼り→逸脱

(例)

不良ではないのに「不良」のレッテルを貼られることで、本当に不良になってしまう

《覚え方》

ラベルをベター

《ラベリング論に似た理論》

・スティグマ理論

ゴフマンが提唱。ネガティブな刻印(スティグマ)によって差別や偏見を受けること

(例)

前科者は前科という刻印を負って、差別や偏見をされる。

ドーア

『学歴社会——新しい文明病』

○後発効果

近代化が遅ければ遅れるほど、先進国に追いつく必要性が生じ、結果的に学歴にとりつかれてしまうというもの。

トロウ

『高学歴社会の大学』

○高等教育段階説

高等教育の進学率によって、高等教育の在り方が変わっていくとする説

高等教育制度の段階	エリート型	マス型	ユニバーサル型
制度の規模	~15%	15%~50%	50%~
高等教育の進学機会に対する見方	少数者の特権	相対的多数者の権利	万人の義務
高等教育の機能	エリートの性格形成	専門分化したエリート養成+社会の指導者	産業社会に適応できる国民の育成

		育成	
--	--	----	--

【覚えておくと差がつく人物】

ヴェブレン

『有閑階級の理論』『アメリカの高等教育』

有閑階級の見栄のための教育消費(=衒示的消費)

ヤング

著作:『メリトクラシー』(1958年出版のSF小説)

○メリトクラシー(能力主義)

メリット(功績)+クラシー(支配)の造語。

前近代の身分や生まれで地位が決定されていたのに対し、成績(メリット)で地位が決定するという理論。

メリトクラシーは、小説では、メリットによる厳密性が高まるほど、却って高知能エリートによる世襲になるという逆説により、全国的な危機を迎える。

【「社会学」などでも出題される人物】

ウィリス

著作:『ハマータウンの野郎ども』

イギリスの労働者階級の学校を**参与観察**

参与観察:調査対象の集団に参加して、長期間生活を一緒にする中で観察する方法

ウェーバー

『支配の社会学』

カリスマ的支配、伝統的支配、合法的支配の三類型は、社会学の方でも頻出。

・カリスマ的支配:特別な資質を持つ者による支配(例)ナポレオンなど

- ・伝統的支配: 伝統によって権威づけされた者による支配 (例) 天皇など
- ・合法的支配: 合理的に定められたルールで支配権を与えられた者による支配 (例) 官僚制

エリクソン

『幼児期と社会』『自我同一性』

8つの発達段階説で周囲との関係性で生じる課題とそこから導かれる要素が年齢ごとに決まっているとする考え。心理学では頻出。

時期	年齢	心理的課題	導かれる要素(徳)
乳児期	0~2歳	信頼 VS 不信	希望
幼児期	2~4歳	自律性 VS 恥と疑惑	意思
児童期	4~7歳	積極性 VS 罪悪感	目的
学童期	7~12歳	勤勉性 VS 劣等感	有能感
青年期	13~19歳	同一性(アイデンティティ)の獲得 VS その拡散	誠実
成人期	20~39歳	親密性 VS 孤独	愛情
壮年期	40~64歳	生殖性 VS 没我	世話
老年期	65歳以上	自己統合 VS 絶望	賢さ

パーソンズ

○AGIL 図式

社会の維持存続のために4つの条件があり、それを図式化したもの

A:「適応」(Adaptation)

G:「目標達成」(Goal attainment)

I:「統合」(Integration)

L:「潜在的パターンの維持」(Latent pattern maintenance)

デュルケーム

『自殺論』『教育と社会学』

教育社会学の開祖。社会学ではアノミー理論で有名。

○デュルケームの理論

教育とは→大人が子どもに自分たちの社会や集団の伝統・知識・技術などの文化を伝達するもの

→子どもを**社会化**(その社会のメンバーにする)させるもの

【試験に出る教育社会学用語まとめ】

文化資本

学校制度における個人の成功や失敗を説明するために、ブルデューが提唱。家庭の生育環境のなかで自然に身につく、学校での適応を高めるように働く知識や技能の総称。一昔前のピアノが代表的で、ピアノを通じて上流階級同士が親密になり、それが再生産される(=文化的再生産)ことで教育格差が生じるとした。

大学のユニバーサル化

トロウの高等教育段階説における、進学年齢者の50%以上が高等教育機関(≒大学)に進学している状態。現代日本もこの状態であり、大学全入時代と呼ばれる状況にあたる。

隠れたカリキュラム(=潜在的カリキュラム)

国語算数など、学習指導要領に明文化されているものを顕在的カリキュラムという一方、教師によって伝えられる暗黙裡の指導(例:時間遵守など)が、隠れたカリキュラムと呼ばれる。隠れたカリキュラムにより学校の統制が保たれた一方で、学習指導要領のように画一化されていないため、地域差、社会階層の固定化などの要因ともなる。

学校化社会

学校制度が、知識の生産・伝達はもとより、社会のあらゆる経済活動に深く関わるようになっていく状態。これを批判したのがイリイチの「脱学校論」である。